

鳥取沿岸海岸保全基本計画の変更案に係るパブリックコメントの結果について

令和8年3月●●日
河 川 課

気候変動（2100年時点）を踏まえた海岸の波のうちあげ高などの防護水準等を見直すため、「鳥取沿岸海岸保全基本計画」の変更案について、県民の皆さまに広く意見を伺うためのパブリックコメントを実施しましたので、その結果を報告します。

1 パブリックコメントの意見聴取状況

- (1) 募集期間：令和8年1月16日から令和8年2月13日まで
- (2) 周知方法：とりネットへの掲載、新聞広告への掲載（1月25日）、行政機関（県・市）窓口へのチラシ・意見表の配架
- (3) 意見総数（応募者数）：4件（2名）（うち県内3件（1名）、県外1件（1名））

2 パブリックコメントの主な意見と対応方針

	意見	対応方針
1	かつては一面が美しい砂で覆われ裸足で安全に歩けた浜辺であったが、サンドリサイクルを重ねるごとに、砂浜の質は明らかに低下しており、大小の石や異物が目立ち、時にはゴミが混入している状況も見受けられるので、今後は投入土砂の品質管理を行うこと。	【変更計画に反映する】 海岸保全基本計画（案）の3. 海岸環境の整備及び保全に関する事項に、「サンドリサイクル時には養浜材料にごみや大きな石が混入しないように努めるものとする。」を追記します。
2	安易にテトラポッドや防波堤、人工リーフ等の人工構造物を導入することは、不自然なカレント（離岸流）を発生させ、海難事故を助長する要因となることから、コンクリートの構造物に依存する対症療法ではなく、自然環境そのものの回復を基軸とした海岸保全への転換を強く求める。	【変更計画に反映する】 サンドリサイクルだけでは効果に限界がある場合は施設整備を行うこととしており、海岸保全基本計画（案）に「施設の新設及び改良方法を選定する際には、海岸環境や利用状況を踏まえて選定することとする。」と追記し、海岸環境や利用状況に配慮した施設整備に取り組んでいきます。
3	近年、コロナ禍やSNSの普及により県外からの利用者が増加し、ゴミ問題や駐車場問題等で、地元住民からの苦情が絶えない状況が続いています。観光振興や利用者増加ではなく、30年後、50年後の子供達が安心して裸足で走り回れる自然な砂浜を取り戻すことを求める。	【既計画に記載済み】 海岸保全基本計画に記載のとおり、利便施設の適切な管理や利用者マナーの向上に努めるとともに、海岸利用に関するルールの周知やマナー向上に向けて、地元自治体やボランティア団体、地域の人々と連携した啓発活動を進め、海岸を次世代に継承できるように防護・環境・利用が調和した海岸づくりを進めていきます。